

要所に配置し入場職工を阻止する者の警戒に努め、争議團亦豫定の行動に出でんとせるが、官憲の注意に依り行商隊の隊伍を解き、普通職工として通路の要所に一團を作り無言の儘一種の示威を試み、暗黙の裡に兩々鎗を削りて對峙せるが、七時半までには約二千の職工の入場を見たり。會社側の發表する處に依れば當日の入場者左の如し。

工場別	職工總數	入場者
造船	七、九四六	一、三一一
造機	三、〇二五	三四二
電気	八七六	五〇
製罐	一、五三三	一七七
造兵	八九	八
建築	九七	五
	一三、五六六	一八九三

一方荻合工場に於ては此日の入場者は本社工場、兵庫工場に比して頗る多く事實上殆んど全部の就業を見し如き状態にありて、争議團側の牽制運動も警察當局の警戒嚴重なるため如何とも策の施しやうなく、多くは手を束ねて傍觀するに止まりたり。兵庫工場は罷工職工の結束最も鞏固なりと觀測され

居りし結果、會社側も職工側も官憲も極度の緊張振を示したり。争議本部に於ては未明より兵庫驛附近の要所々に委員を派して監視を怠らず、官憲又百に近き正、私服の巡查を配して之に對峙せしめ白木兵庫署長總指揮として工場正門前に控へたり。而して争議團の監視係を警戒し、附近を彷徨する者は容謝なく誰何して退散せしめたり。争議團側は又行商に託して入場せんとする職工を物色し鋭く眼光を閃めかしつ、「結束を破るな」と暗示し、兩者は無言裡に火花を散らして警戒戦を行ひたり。當日の入場者數左の如し。

荻合分工場	全員	八七六八	入場者	六九〇人
兵庫分工場	全員	三、〇三九人	入場者	一七四人

會社側にては三工場を通じて二千七百五十名の入場職工を得て漸く愁眉を開くに至れるが、當日は職工慰勞の意味に於て本社各工場、荻合、兵庫兩分工場一般に午後二時限り終業し職工等を全部帰宅せしめたり。當日出勤の職工一同に對し會社にては相當の方法を講ずべしとして工場内に左の如き揭示を爲したり。

告

諸子は他の煽動に迷はず脅迫をも恐れず各自の自由意志により出業したる人々にして會社は諸子の誠意と其自信力とを認むるが故